

大草谷津田いきものの里 自然観察会

せみのぬけがらみつけ！

田井中信子（千葉市）

日時：2012年8月19日（日）10：30～12：00 天候：晴れ一時雨

参加者：13名（大人8名、子ども5名）

担当指導者：岡田敬子、田井中信子

猛暑と不安定な天候のためか定刻になっても参加者がなかなか集まらなかった。大草谷津田の主旨などの説明の後、熱中症とスズメバチについて注意事項を話した。

「今日は皆さんにセミのぬけがら調査員をお願いします」と言って採集用のパックを渡した。出発する前に指導員のOさんが、トゲナナフシとクマゼミのオス・メスとぬけがらを持参して下さったので、アブラゼミと大きさの比較をしたり、オスとメスのちがい、大声で鳴く仕組みなどについて説明していただいた。



杉林の入口付近で足元に小さな穴が開いている。セミの出てきた穴だ。「ほら、こんなところにぬけがらがついているよ。」とちょっと指し示すと、すぐ子ども達は場所の見当をつけ、次々とケースをいっぱいにしていった。

めじろんばから右に、下ノ畑方向へ進む。

木の根元付近や幹の途中、木や草の大きな葉の裏、細い草の葉、枯れ枝の先等。しっかり爪をたてているぬけがらをうれしそうにはずしていった。

途中空が曇ったか、一斉にヒグラシの声。少し雨も落ちてきたが、大事なく階段の下へ。道みちハグロトンボ、色づきはじめてハナイカダの実、地面に白い花のようなツチグリ、網を張ったクモ等も楽しみながら観察していった。

結果 総合計 採集者8人 120匹 1番多かった人23匹

内容 ニイニイゼミ25匹 アブラゼミ10匹 ヒグラシ85匹

メスの数がオスより多かった。

田圃の水路ではオニヤンマがパトロールに余念なく、早速常連の兄弟のひとりが捕まえた。トンボの観察のおまけまでついて、皆笑顔で解散した。

参加者からの感想

- ・ぬけがらで種類やオス・メスまでわかる事に驚いた。知らないことが多いことに気付かされた。9月の観察会が楽しみです。
- ・いつもの景色でも目を凝らして見れば、色々な生き物がいる事に気付いた。
- ・ぬけがらが思ったより下にあって子どもの方がよく見つけた。虫捕りは楽しく小さな子どもも最後まで元気よく歩きました。
- ・良い所なのでまた来たい。

